



## グリーン交悠録

### グリーンが縁で知り合えた友人 45年間続く「我がゴルフ交悠録」

財界通信社（本誌）社長 大中 吉一  
聞き手 ユーニス社長 兵頭 大輔氏



千葉カントリークラブ梅郷コース

#### ゴルフは

#### 「19番ホール」が大事

**兵頭** 2017年はどんな年でしたか。

**大中** 個人的には、足を患い入院したことを深く反省しております。

**兵頭** 一時はどのようなことかと、心配しましたよ（笑）。

**大中** 心配をおかけしまして、申し訳ありませんでした。私も2018年には72歳を迎えます。戊年、歳男です。ですので、もう少し健康管理には気を遣うよう努力します。

**兵頭** お願いしますよ（笑）。ところで、産業界でも問題が多かった1年でしたね。

**大中** 全くです。「技術立国ニッポン」の屋台骨を揺さぶった年だったことは間違いないでしょうね。名門企業の不祥事が連発しました。神戸製鋼、日産、スバル、三菱マテリアル……。

**兵頭** そのとおりです。貿易立国の日本にとっては致命的では。

**大中** その心配はあります。そして世界もクオリティの高さの代名詞「メイド・イン・ジャパン」に、世界が首を傾げ始めた年だったとも思います。でも、日本の技術はまだまだ世

界最先端をだと確信しています。

**兵頭** その根拠は。

**大中** 日本の中小企業が頑張っているからです。ご存知かと思いますが、大企業が製造する完成品の95〜97・5%は、実は1次、2次、3次下請けの中小・零細企業が製造する部品で支えられているのです。

**兵頭** そんなに高率なんですね。

**大中** しかし、データ改竄を始めとする2017年の企業不祥事が、「日本株式会社」の信用を世界的に貶めたのは事実です。もう一度、経団連を始め、関経連、中部経済連合会など、あらゆる経済団体が深く反省すべきです。2020年には東京五輪が開催されるのですから、ある意味いい機会だと思えます。スポーツを通じて日本人の素晴らしさを発信すればいいのではないのでしょうか。

**兵頭** さて、本題ですが、12月9日にキックマン名譽会長の茂木友三郎さんと、恒例のコンペを千葉県の千葉カントリークラブ野田コースで戦われたそうですね。

**大中** そのとおりです（笑）。友人である友三郎さんと、1年に春と秋の2度、必ず行なっている「我がゴルフ交悠録」というコンペです。

**兵藤** 今回のメンバーは。

**大中** 私と友三郎さんが、毎回それぞれ知人・友人を招くのですが、今回友三郎さんは、元農水大臣の島村宜伸さん、そして私はカルビー会長兼CEOの松本晃さんです。

**兵藤** 素晴らしい面々ですね。

**大中** そうです。しかも、天気にも恵まれ、さらにゴルフ談義、19番ホールも盛り上がり、日本の政界や世界観などについて、お風呂上りでワイ

ン片手に議論しました。いつもならば30分ほどでお開きになるのですが、今回は何と2時間にも達しました。これがゴルフ交悠録の重きであり醍醐味だと思います。

**兵藤** 2時間とは凄いですね。

**大中** 皆さんが18ラウンドをプレイして、汗を流し、美味しいビールとを飲み、これが導火線となって、議論に弾みがつきます。

**兵藤** 確か、大中さんと茂木さんとの出会いは、細川隆元先生がきっかけでしたと聞いています。

**大中** そうです。友三郎さんのお父さん、茂木啓三郎さんと細川先生がゴルフをすることになり、その時啓三郎さんが息子の友三郎さんを、そして細川先生が「お前、ついて来い」



と、私を誘ってくれたのが最初でした。  
**兵頭** いつ頃の話ですか。

**大中** かれこれ45年前の話です。この時のコースが千葉カントリークラブ梅郷コースで、ここで初めて友三郎さんと出会ったのです。そしてこの時がまさに12月9日でした。

**兵頭** なるほど。先日の「ゴルフ交悠会」も12月9日にこだわるのですね。

**大中** そうです。19番ホールでは興味深い話をいろいろと聞かせてもらっています。

**兵頭** どういう話ですか。

**大中** 例えば、キッコーマンはかつて野田醤油醸造と名乗っていました。が、「キッコーマン」とカタカナ名への社名変更には、何と細川先生も関わっていたのです。この話などは特に印象深いものでした。

**兵頭** そうなんですか。

**大中** その後、啓三郎さんの息子である友三郎さんが、世界に羽ばたき、米国ウイスコンシン州、欧州のオランダなどに生産基地を設け、今やキッコーマンの売り上げの65%は海外で稼いでいるようです。

**兵頭** まさに世界の「シヨウユ」を確固たるものにしたわけですね。

**大中** そうです、その友三郎さんと

いう素晴らしい経営者にお目にかり、しかも45年という長い年月、年に2回、臨時も含めると120回以上はお手合わせして頂いています。こんなに長いラウンドを維持できたのも、友三郎さんが健康で、そして何より素晴らしい経営感覚があったからこそだと思います。

### 国策研究会で出会った

#### 「矢次一夫」と言う怪物

**兵頭** ところで、大中さんは若い頃細川さんに、かの国策研究会も紹介されたとかお聞きしましたが。

**大中** そうです。ある日、「大中君、国策研究会に矢次一夫君という人間がおるから、是非とも会いなさい」と細川さんが仰るので、矢次さんが主宰する勉強会に、まずは連れて行ってもらったのです。

**兵頭** 出席された方は。

**大中** 上場企業約130社のトップ達です。日本倶楽部を会場に毎月2回、そして年に3、4回、赤坂、川崎の料亭で、「金杯会」と言う名の懇親会を開催していました。

**兵頭** もの凄い勉強会ですね。

**大中** そうです。まさしく、三菱、三井、住友の旧財閥グループを中心に、各業界の首脳達が顔を連ねてい

ました。夜の会合にお邪魔した際には、「戦後財界のドン」と呼ばれ、後に新日鐵会長となる永野重雄さんを筆頭に、三菱鉱業セメント社長の大槻文平さんなど、日本株式会社の重鎮達がズラリ。そして、矢次さんはまだ首相になる前の田中角栄さんを特別ゲストとして招いていました。

**兵藤** へえ。角栄さんですか。

**大中** 矢次さんは、岸信介元首相が、韓国の李承晩大統領を相手に、日韓交渉をした際に、密使として活躍したお方。そして田中さんが挨拶をした時、「私は議員になってこれほど嬉しいことはありません。矢次先生は岸先生を筆頭に、福田赳夫先生、安倍晋太郎先生のラインの方であるにもかかわらず、他派閥の私を呼んでくれました。本日は生涯で最も嬉しい日です」と感激し、列席した110人ほどの財界の重鎮達に、一

人ひとりお酌して回っていました。こんな人間模様を目の当たりにして私は思わず「矢次さんは怪物だ」と圧倒されたのを見えています。

**兵藤** 貴重な場面に同席されていたんですね。

**大中** そして、その数日後に「ゴルフをやるから」と細川先生が仰るので、出向くと、これが今でも続く国策研究会書業会ゴルフだったのです。

**兵頭** 伝説のゴルフ会ですね。

**大中** 年に6回、約60年続いており私の記憶では回数はすでに386回を超えているはず。ここにおられたメンバーが岸先生、福田先生、安倍先生、越智道雄先生。これに三菱地所の渡辺武次郎さん、三菱重工の河野会長、住友銀行の安藤太郎など。これまた錚々たる顔ぶれでした。これほど回数を重ねているゴルフ会には、日本にはないはずです。

**兵頭** もちろん、そうでしょうね。

**大中** 私自身、最近ここは欠席気味ですが、読者の皆さんもゴルフは1人でやっても寂しいものです。やはり、4人そしてコンペで行ない、知り合った方々と名刺交換をし、新しい組み合わせで新しい人からゴルフを学び、人脈を広げるのがいいのでは。あまり「ビジネスありき」でゴルフを行なうのはあまりお勧めしませんが、ここで得た人脈は、必ず経営や人生にとつての糧になるはずです。とにかくゴルフ道を極めて頂きたいと思っています。

**兵頭** 有難うございました。